



チャレンジカップには、若者を中心に地元住民が大勢詰め掛けた

FIELD SKETCH

中田英寿さんが JICA のサッカー イベントを視察

2008年2月2日、ガーナで、JICAによる若者のHIV予防啓発活動と連動させたサッカー大会が行われた。この大会にサッカー元日本代表の中田英寿さんが応援に駆けつけてくれた。世界を旅し、人々が直面するさまざまな問題を目の当たりにしてきた中田さんは、4月に、地球市民である個々人が「なにかできること、ひとつ。」をテーマに自らできるアクションを起こす「+1(プラス・ワン)」キャンペーンを呼び掛けた。そんな彼がガーナで見た熱いサッカー大会とは？

「TAKE ACTION! 2008」(<http://www.takeaction2008.com>)

文・写真 = 梁瀬 直樹 (JICAガーナ事務所員)
text and photos by Yanase Naoki



ガーナ
GHANA

サッカーとHIV/AIDS

ガーナで老若男女に絶大な人気を誇るサッカー。今年1月下旬には、2年に一度の 아프리카ンカップがガーナにて開催され、全土がサッカーフィーバーに包まれた。

一方、2月2日、あるコミュニティーの中学校校庭にもたくさんの方が集まっていた。ここでもサッカーの試合が行われていたが、試合前とハーフタイムには、HIV/AIDSに関する劇やクイズが行われるというユニークな内容。実はこのイベント、現在、JICAが実施中のマスメディアを通じたエイズ

教育(通称H.A.P.E.)プロジェクトによる「ICAH.A.P.E.チャレンジカップ」である。この大会を一目見ようと、多くの人が集まっていたのだ。

ガーナのHIV感染率は、15〜49歳の妊婦対象としたHIV感染率調査によると、ここ数年3%前後を推移しており、やや下降傾向、もしくは安定期に差し掛かりつつあるともいわれている。しかし、若者層(15〜24歳)のHIV感染率は年々上昇傾向にあり、若者の新規HIV感染防止対策は同国の重要課題に位置付けられている。

こうした中、2005年10月から4年計画で始まったH.A.P.E.プロジェクトでは、ガー

ナでのHIV新規感

染拡大防止を目指して、ラジオ放送、ドラマショーやビデオショーなどの移動キャンペーン、ボランティアやピアエデュケーターを通じた若者とのディスカッションなど、多角的な予防啓発活動を対象のコミュニティー(イースタン州、アシャンテ州を中心とした2市8郡)

チャレンジカップ会場ではHAPEプロジェクト紹介写真展も開催。写真に見入る地元の子供たち



で実施している。また、プロジェクトの対象地域には、青年海外協力隊(エイズ対策)を派遣し草の根レベルでのHIV予防啓発活動にも取り組んでいる。

(サッカー)という言葉が聞いただけで反応し、喜び子どもたちの姿を見て、サッカーとプロジェクトを効果的に組み合わせられないかと考えていました」とプロジェクトの櫻井有希子専門家(当時)は言う。

イベントをHIV予防啓発活動の柱の一つに位置付け、初めての本格的な取り組みとなる「ICAH.A.P.E.チャレンジカップ」を

合開始の前に、HIV予防啓発に関連するドラマショーを上演。その後、試合のハーフタイムに、ドラマショーの内容に関するクイズが両チームに出され、正解数の多かったチームにサッカーのスコア、1点が加算されるという仕組みだ。

ハーフタイムに行われたクイズ大会の様子。HIV予防啓発活動に取り組む青年海外協力隊員らも手伝った



ドラマを演ずるボランティアグループ(中央)と鑑賞する地元住民たち

それまで試験的に行ってきた大会では、動員数も含め、予想以上の反響があった。サッカーに参加した若者たちからは「サッカーの勝敗に関係するので、ドラマの鑑賞も真剣勝負だった」という声が聞かれ、住民からも「サッカーのみならず、ドラマやクイズも楽しめて、自然とHIVに関する知識が身に付いた」と高い評価を得ており、手ごたえを感じているところだった。

JICA・H.A.P.E.チャレンジカップ 開催と中田英寿さんの訪問

そこでプロジェクトチームでは、サッカー



中田さんお勤めのサッカーアカデミー

中田さんは、ガーナで「Right to Dream Football Academy School」も視察している。同スクールは、英国プレミアリーグ、マンチェスター・ユナイテッドのアフリカ担当スカウトであったトム・ヴァーノン氏が1999年に立ち上げたNGO「Right to Dream」が運営するサッカーアカデミーだ。ガーナの恵まれない子どもたちにサッカーのトレーニングと勉強の機会を提供し、卒業生がガーナ国内のみならず、国際社会で立ち立つのをサポートしている。

現在、同スクールでは、ガーナの貧困地域出身の12歳以上の子ども総勢60人が寄宿舎生活を送りながら、サッカーの練習と勉学に励んでいる。すでに卒業生の中には、英国プレミアリーグのサッカーチームと正式に契約を結んだ者や、米国や英国の大学で奨学金を得て、大学に進学している者もいるそうだ。

どんな子どもにも夢を見る権利はある。夢さえ見ることができなかった貧しいガーナの子どもたちに、夢を与えるサッカーアカデミー。これからもここから多くのサクセスストーリーが生まれることであろう。

今後、HAPEプロジェクトチームでは、同スクールの協力を仰ぎながら、「JICA-HAPEチャレンジカップ」をより魅力的な大会にし、より多くのガーナ人にHIV予防の大切さを訴えていきたいと考えている。

Right to Dream : <http://righttodream.com>



サッカーのフェアプレーとHIV感染予防のために日常生活でのフェアプレーを訴えるサッカーマガジン『EXTRA TIME』JICA支援により制作 産宣伝する櫻井専門家

では、「蚊に刺されてHIVに感染する、かゝか？」といった、先に上演されたドラマシヨールに関するクイズが両校の選手・生徒に次々に出された。

試合は後半も無得点に終わり、クイズで1点を勝ち取った学校が勝者に決まりかけていたが、意外な展開に、両校の選手から、サッカーでも勝敗をつけさせてほしいとの懇願が主催者側にあつたのだ。あまりの選手たちの気迫に、主催者側も根負けしてしまい、最後は白熱したPK合戦。結局、クイズで勝利した学校がサッカーの試合も制した。

表彰式では、中田さんから、対戦した中学校とグラウンドを提供してくれた地元中学校に、サッカーボールが寄贈された。世界の「ナカタ」からのプレゼントに、子どもたちの興奮は最高潮に達し、その模様は地元紙やテレビでも報道された。

3時間近くにも及んだ「JICA-HAPEチャレンジカップ」。最後まで真剣に目を光らせていた中田さんは、終了後、「HIV予防啓発とサッカーのフェアプレーを関連付けるのであれば、サッカーのフェアプレーもきちんと指導したほうがいいですね」「クイズ大会では、一部の選手・生徒だけでなく、多くの若者が一緒に参加できるような工夫するといいいですね」「せっかく子どもたちが一生懸命ドラマを上演していたので、もう少し音響を改善したほうがいいですよ」と今後のイベント運営に関して貴重なアドバイスをくれた。

プロジェクト関係者も、ガーナで人気のサッカーをプロジェクトの活動に導入し、また

中田さんからのアドバイスと今後のHAPEプロジェクト

世界の「ナカタ」さんが応援に駆けつけてくれたことで、若者や住民の参加意識が大きく向上した」と今回の大会を高く評価。プロジェクトチームでは、中田さんのアドバイスを積極的に取り入れ、ガーナでの新規HIV感染拡大防止のために、今後もより良いプロジェクト運営を目指していく。



PKで勝敗が決まり、歓喜する選手と観客たち

開催 同大会では、プロジェクトのトサイトの一つ、アスオジヤマン郡で2つの中学校が対戦した。2校は、昨年12月1日の世界エイズデーに行われたHIV&AIDSクイ

ズ大会」の成績優秀校だ。

このチャレンジカップに、サッカー元日本代表選手の中田英寿さんが応援に駆けつけてくれたのだ。中田さんは、試合開始前に行われたHIV予防啓発ドラマシヨールから一緒に観戦。これは、地元の若者のボランティア自身が役者となって、HIV感染の恐ろしさやHIV予防の大切さを訴えていくドラマで、中田さんも彼らの演技に真剣なまなざしで見入っていた。

続いて、中学校対抗のサッカーマッチ。ホイッスルとともに、穏やかだった選手の目は、一瞬にして鋭くなる。中田さんも熱心に見守る中、前半は、両校無得点のままハーフタイムに突入。その間に行われたクイズ大会



サッカーボールを参加中学校関係者や子どもたちに寄贈する中田さん